「M情報デスク」サポート団体
救う会大阪　NO！民主桜組
米国に原爆投下謝罪を求める会
大阪の公教育を考える会
スパイ防止法の制定を求める会
外国人参政権に反対する会・関西
日教組の違法行為を追及する市民の会
竹島を奪還する会・関西
靖国神社に眠る御霊に感謝する会

MASUKI INFO. DESK FIGHTING REPORT

闘魂より発信！

No. 133
【発行・編集】
MASUKI情報デスク
増木直美
大阪府豊中市上新田2-6-25-113
TEL　090-3621-1509
FAX　06-6835-0974
http://mid.parfe.jp/
mid@jewel.ocn.ne.jp

八月九日米国大使館の星条旗が半旗に

米国のアキレス腱は東京大空襲と原爆投下

主権回復を目指す会
西村修平

リメンバー長崎！
真珠湾をもう一度

広島への原爆投下三日後、まだ広島は死者累々、破壊の余塵がくすぶる阿鼻叫喚の渦中にあった。その最中の8月9日、米国は長崎へ広島型と異なる原爆（プルトニウム型）を投下した。まさしく悪魔の所業である。推定人口24万人の内、約7万4千人が焼き殺され、被爆の後遺症で更に7万人以上が亡くなっているが詳細な数は今もって定かでない。その投下67周年にあたる長崎の平和祈念式典に、米国政府代表としてルース駐日大使が参列した。ルース大使は2年前に広島の式典に参列しているが、米国大使が長崎の式典に参列するのは初めての出来事である。

ルース米大使は参列するにあたって、「第2次世界大戦の全ての犠牲者に敬意を表すため」と述べるだけで、原爆犠牲者への追悼並びに米国の戦争犯罪に関する問題には一切触れず、会場を無言のまま立ち去った。

昨年の8月9日、米国大使館前で例年通り原爆投議文を提出すると共に米国の残虐を厳しく縦断した。だがこの時は星条旗は平常の位置に掲揚されていて半旗ではなかった。今年の8月6日もまた半旗ではなかった。

米国大使館前で毎年、3月10日の東京大空襲、8月6日、9日の原爆が投下された日に、当会は焼き殺された同胞の遺体写真を掲げ、米国の戦争犯罪の謝罪を要求し続けている。

8月9日、米国大使館前で抗議活動中の西村修平氏と児島謙剛氏

この抗議行動は米国大使館とその周辺を行き交うアメリカ人らにとって、直視できない酸鼻極まる歴史の真実ばかりである。米国にとって触れられては耐え難い、いわばアキレス腱のようなものだ。

今年は大使が式典に参列したことと半旗に相当ないきさつがあったのは確かだろう。我々の記憶のなかで原爆投下の日に当たる6日、9日に米国大使館が弔意を表す半旗を掲揚することはなかった。我々の地道な戦争犯罪糾弾が何らかの影響を与えたかどうか知らぬところだが、いずれにしても画期的なことに間違いはない。

米国にとってアキレス腱とは、東京大空襲と原爆投下である。この事実の前に米国は一言の釈明も出来ない。米国が「南京大虐殺」「慰安婦強制連行」の捏造をデッチ上げるのは、日本人が米国の戦争犯罪を徹底追及しないことにこそ最大の原因がある。米国の戦争犯罪を徹底追及しない限り、彼らの歴史捏造を粉砕することは出来ない。歴史の捏造は日本民族に対する冤罪であり、これ以上の屈辱はない。この屈辱の連鎖を断ち切るため、我々はことある度に米国大使館への抗議を続けるのである。

議員からのメッセージ

今日のツッチーより
約束
2012.8.10

東京都議会議員　土屋敬之

死に行く者との約束ほど、絶対性を持つものはない。戦没者であろうと平時の死者であろうとそれは同じだ。

ところが、戦後の「民主教育」によって、彼らに言わせれば「たったひとつしかない命」を捧げた特攻は、「戦争犠牲者」だとか、「効率も低く意味がなかった」と卑しめられている。

我が国は、世界一の長寿社会だとか言って「自慢」している政治家がいるが、では、その実態はどうか？老人病院をご覧になったことがあるか。そこには確かに「生物学的意味」で生存している人間はあるが、尊厳を持って「生きている」人間はいない。

戦後教育の「生命尊重主義」は、単なる医者の論文の材料になっていると言ったら、医師から異論が出るだろうが、自分は極々一部の例外を除いて、尊厳など蚊帳の外になっていると確信している。

「靖国で会おう」と言う最後のことばに「嘘があった」と言う。では、あなたは日常会話の中で「嘘は言わない」「建前は言わない」のか？？

「言っている」

だから、靖国の英霊も、実際は怖かったかもしれない、怖気づいたのかも知れない、しかし、一旦「神」になった英霊は、「立派に散華した」と尊敬されなければいけないのだ。

私は、犯罪被害者が「犯人を絶対に許せない」と言う言葉を重く受け止めている。仮にだが、最愛の人を殺されたら、自分は絶対に報復する。「議員がそんな分別のないことを言うべきではない」と以前言われたことがあるが、私は死者の「無念」「想い」は絶対と考えるから、超法規的にでも報復はする。戦後、報復した人間はいない。だから、人一人殺しても、4年か5年の懲役で、大体が「仮釈放」でその前に娑婆に出る。愛する者を殺されて、相応の理由があるのならまだしも、通りがかりで殺されて、その人間の命はない。ないにもかかわらず、犯人は太平の世で生きている。この矛盾を許せる感覚が理解できない。

英霊は、祖国に殉じた。それでいいのだ。それが、アメリカ占領軍の巧妙な「思想統制」で、マインドコントロールされて日本人は自虐史観にとらわれ、靖国が軍国主義の象徴のように考えるようになった。靖国が軍国主義の象徴なら、アーリントンはどうなのか？　こんな簡単な設問さえ、こころに浮かばないような情けない国民に仕立て上げられてしまった。

来世はどんなものか霊の生まれ変わりと言う本があるが、そんな程度しか知らない。しかし来世はある。そこで、愛する子供や、夫、恋人が待っているとするのならあなたはどうするか？毅然と今を生きなければならないことは当然だが。では精神はどうした。

精神があるとするのなら靖国に論を待たずに参拝するのは必然の責務だ。

「靖国を卑しる訴訟」を誰がどんな背景で行っていることも知らないで、現実の一面だけ見て、「靖国批判」をするのは稚拙だ。私の主張に疑問があるのなら、調べてみたらいい。調べもしないで「主張」をすることは民主主義社会では「ありえない」ことだ。日本人のことばは、言霊と言う、魂が宿っている。だから大切なのだ。もう、政治家の参拝などいい。この前、やまと新聞のコラムに書いた。陛下の親拝があればそれでいい。

魂は静寂なところにある。誰もがいつかそこに行く。だから襟を正さなければいけない。現世は修行の場だと言う。来世はどうなのか諸説ある。諸説あるがそれを解明する必要もない。必要なことは、約束は守るためにあると言うことだ。

オリンピック・サッカー日韓戦で韓国大統領竹島視察を抗議

柏市議会議員　上椙　泉

今朝早朝、オリンピック・サッカー日韓戦が行われました。日本チームには、柏出身の酒井宏樹選手がいるので、柏市役所玄関ロビーで、大スクリーンで観戦会が行われました。

酒井宏樹選手がすぐ近所に住んでいる（現在はドイツですが）ので、出かける予定ではいましたが、昨日、韓国の大統領が竹島を視察したので、この機会を利用して、日本人の韓国に対する怒りを表明してやろうと考えました。

「竹島は日本領」と大書した模造紙をかかえて出かけました。マスコミが多数必ず撮影に来ますので、彼らのカメラが向かう位置に陣がまえたのです。会場には、250名の応援団がいましたが、99％は40歳未満の若者です。選手入場の時から、模造紙を大きく広げました。試合終了まで広げていましたが、250名の誰からも、プラスの反応も、マイナスの反応もありませんでした。前日の出来事に何も感じていないのです。

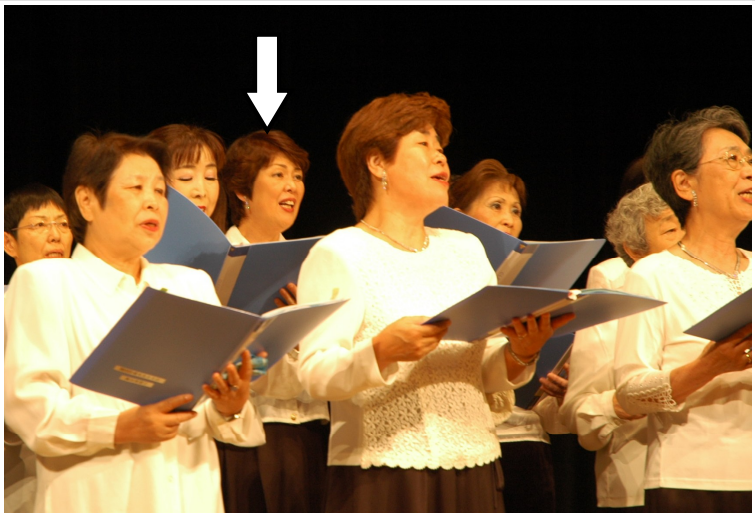
所詮、日本人にとっては、竹島問題は他人事であることがよくわかりました。休憩時間に、知っている記者をつかまえて、「観戦会で、韓国大統領の竹島視察の抗議があったと伝えよ」と言いましたが、「サッカーの試合ですからね」との無関心な反応です。これには残念でしたが、新聞の写真には、「竹島は日本領」と大書した模造紙が出てきますので、新聞の写真を見る（明日になります）人には、竹島視察の抗議があったのだなということがよくわかります。

半島人が見れば、「日本人の中には、本当で怒っているやつもいるのだな」ということが、よくわかったはずだと思います。

250名の皆が、変なことをする老人がいると思ったのでしょうが、我々としては、このようなこまかな抗議活動を続けてゆくしかありません。新聞記者は、サッカーと関係ないのにと言いましたが、韓国は、これまで、慰安婦問題と全然関係のない場も含めてあらゆる機会で、慰安婦問題を世界各地で取り上げてきました。我々も、周囲が何を言おうとも、このような抗議活動を続けて行かなければなりません。日本人の最大の欠点は、賢い振りをすることです。抗議活動をすることをはしたないことだと、かっこをつけて逃げてきました。このようなことだから、日本は韓国に連戦連敗です。こうなったら、恥も外聞もない抗議をしてゆかねばならないと思いました。

大阪市会議長辻先生は文化系です

M情報　増木重夫



7月8日、大阪で「関西防衛を支える会」が主催し、「第3回、日本の詩情・熱血歌唱祭」が行われた。私も雑用一手引き受け係りを担当した。陸上自衛隊中部音楽隊の演奏、ソプラノ歌手大峰和子嬢の熱唱。恒例の村上学氏の「狼の唄」「蒙古放浪歌」等に1000人の観客は酔った。「大人の学芸会」と言ったら新川総監督からお叱りを受けるかも。そして、伴奏は中曽千鶴子が担当し・・・

さらに、歌唱際の完成度を高めるためコーラス隊も編成された。なんとそこに、大阪市会議長に就任したばかりの辻淳子議員が、ご自分も参加されている西成合唱団20名を引き連れて参加。議長はこの日のために議長就任時から、合唱際終了後の懇親会も参加できるよう秘書に日程調整を命じたとか（これは文無責任）。

ちなみに辻先生のご趣味は集会で受付を仕切ること。好物はたこ焼きやお好み焼き（関西で言う『粉もん』）。

市会の副議長は公明党の小玉隆子議員。二人合わせて「『ビューティペア』と呼べ！」と言われてる。早い話が、議長は「西成のおばちゃん」なのデス！

伊勢田幸正氏の当選を喜ぶ

M情報　増木重夫

7月22日富士見市（埼玉県）の市議会選挙で、私たちの盟友伊勢田幸正くんが、対立候補の共産党をダントツで押さえ、2万余票を獲得し初当選しました。市議会選挙で2万?・・・大事なことを書き忘れるところでした。「補選で」。来春3月に本選挙が行われます。「半年の命」ではあまりにあまり。本選挙に向けご支援ください。

大阪維新の会、箕面で完勝

M情報　増木重夫

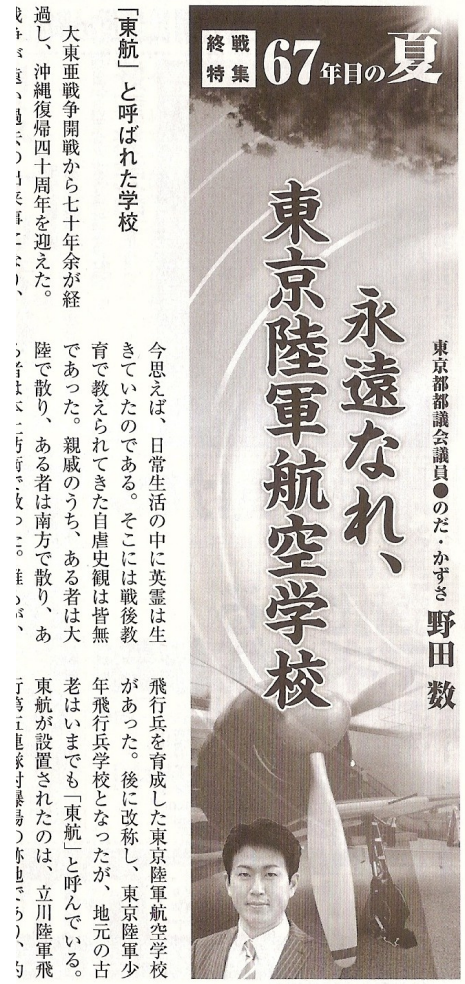
新大阪から真北へ約10キロ。箕面市で8月12日、市長と市会議員の選挙がありました。市長は無投票当選。現、倉田市長の完璧な市政に「異議なし。」と言ったところでしょうか。そして市議会選挙は定員23人に候補者33人。まあまあの激戦。そこへ大阪維新の会幹事、大阪府議、上島一彦議員率いる上島軍団から7名が出馬（大阪維新の会公認4名、推薦3名）し、全員当選。おまけにトップとドンケツも維新という笑えるおまけ付き。選挙の1、2週間前、橋下代表の武勇伝がリークされたのがプラスに働いたのかもしれない。

ここ1、2ケ月、やや右肩が下がっていたように思っていただけに、市民の上島議員への信頼あってこその話だが、維新の力にあらためて敬服せざるを得ない。

もう1つ気になることがある。これで箕面市からは、1~2名程度は残るのかもしれないが、事実上自民党が消滅する。自民党王国の崩壊だ。多分、この現象は大阪府下約50の市町村に広がるのではないか。

前記、橋下代表の武勇伝のリーク元は自民党の古参議院だと週刊誌ではあるが書いてあった。大阪市会で、自民党は組合を擁護し（市役所から出て行く必要なし）、議長選挙では共産党とタッグマッチ。ホップ・ステップ・ジャンプでコケていく。自分からこけていくようだ。

中央に目をやれば、山谷さんやヒゲの隊長ら一部の議員の活躍しか目につかない。首脳部。特に石原幹事長、もうちょっとシャキっとできないか。私はもともと自民党支持。断腸の妥協で。しかしそれ以上に、白でも黒でも、ネズミを捕る猫がいい猫だ。大阪維新は鼠取の名人なのかも。



「少飛平和祈念館」の設立に向け

東京都議会議員　野田数

謹啓

残暑の侯　益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より、ご高配を賜り感謝申し上げます。

この度、**月刊「正論」九月号**に、「永遠なれ、東京陸軍航空学校」とのタイトルで、私の小論が掲載されました。

私の選挙区の武蔵村山市には、戦前、東京陸軍航空学校（後に、東京陸軍少年飛行兵学校と改称）があり、卒業生からは、知覧特攻基地より沖縄戦に出撃した方々が数多くいます。現在、卒業生や元職員などが、関連資料を展示するための「少飛平和祈念館」の設立に向け奔走しております。私も設立運動に携わる一員としてこの度正論で紹介させていただきました。

ご多忙とは存じますが、お買い求めいただき、お目通しいただけましたら幸いです。

今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

敬白

先の大戦の真実は何か

ジェリーこと　中谷良

先日電話で
Hey! Jelly, fine day.
This is Masuki speeking.
と言ったら、「増木さん、壊れたの?」って言われた。　マスキ

次の国々の言葉を見てみれば、如何に韓国、中国、北朝鮮等の、従軍慰安婦、強制連行や南京大虐殺が、嘘っぱちか理解できると思います。　中谷

そして如何に私たちの祖先が素晴らしい日本人であったかも知ることができるとおもいます。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

■『シンガポール』ゴー・チョクトン(第二代首相)

日本軍の緒戦の勝利により、欧米アジア支配は粉砕され、アジア人は自分たちも欧米人に負けないという自信をもった。

日本の敗戦後15年以内に、アジアの植民地は全て解放された。

(1992年2月11日の国立博物館戦争展の開会式にて)

『インドネシア』高官より

■スカルノ(初代大統領)

インドネシアと日本は一心同体である。日本軍の援助がなければ、永久にインドネシアは独立できない。

■スハルト(第二代大統領)

日本語の勉強を始めてまもなく署長から日本軍が組織し始めた現地人軍隊、郷土防衛軍(PETA)への入隊を勧められた。500人の応募者の中から私ともう一人が選ばれ、訓練の施設のあるボゴールに送られた。

PETAでの訓練は想像を絶していた。朝5時半から夜遅くまで軍事教練、理論、精神教育が続き、最前線の司令官となる小団長(小隊長)には特に厳しかった。仲間の一人がたるんでいると全員が夜中まで正座をさせられた。相撲もやった。5回勝つまでやめられず、華奢だった私はつらい思いをした。

「駆けろ、駆けろ」朝の走行訓練での指導官の掛け声は耳に残っている。

私が当時を語る時の用語はいまだに日本語である。PETAでたたき込まれた闘争精神、愛国精神抜きには、我々は再植民地化のため攻めてきたオランダを撃退できなかったと私は思う。その意味で日本軍に感謝している。

■スシロ・バンバン・ユドヨノ(第六代大統領)

日本軍の侵攻がわがインドネシアの独立につながった

■モハマッド・ハッタ(初代副大統領)

1944年9月の初め、東条に代わった小磯首相の、インドネシアは「後日必ず」独立させる、という言葉が放送された。この言葉にインドネシア全土が歓喜したと言ってよい。ジャカルタではこの声明に感謝する大会が開かれた。小磯首相の発表と並行して、ジャワでは多くの変化があった。国歌インドネシア・ラヤを再び歌うことが許可された。紅白旗は日の丸と一緒に掲揚が許された。1944年12月には、数人のインドネシア人が各部の参与になった。彼らは各部の次官と見なされた。この地位は、将来インドネシアが独立した時、大臣になるための訓練をしておくため設けられたものだ。

■アダム・マリク(第三代副大統領)

(オランダの降伏は)東インドにおけるオランダ帝国の終りであった。

バタビアから植民地全体を支配していた時のオランダ人は誇らしげで尊大で冷酷であったが、この同じ人間がチラチャップのごみの中に這いつくばって日本刀の前で許しを乞うていた。これを見た私の胸中に、思い出として東インドにおけるオランダ帝国の崩壊がやきついた。

日本軍占領当時、この書物の著者(著者注:アフマッド・スパルジョ)の指導のもとに、予想されたあらゆる事態に対処すべく青年を鍛錬するための青年塾が育成されたが、その主たる目的は、青年たちに新しい時代、つまり独立時代の到来に備えさせることにあった。著者のこの仕事は、インドネシアの独立運動に同情し、協力してくれた日本人、たとえば西嶋重忠氏、前田精海軍少将、故吉住留五郎氏などから、誠意ある、建設的かつ小さからぬ意味をもつ援助を得たのであり、その名前を忘れることはできない。

この3人の方たちは、引き続きインドネシアの独立準備に協力し、独立宣言を迎えるにいたったのである。

■アラムシャ将軍(第三副首相)

我々インドネシア人は、オランダの鉄鎖を断ち切って独立すべく、350年間に亘り幾度か屍山血河の闘争を試みたが、オランダの狡智なスパイ網と強靭な武力と苛酷な法律によって圧倒され、壊滅されてしまった。それを日本軍が到来するや、たちまちにしてオランダの鉄鎖を断ち切ってくれた。インドネシア人が歓喜雀躍し、感謝感激したのは当然である。

日本軍がインドネシアに来る数年前より、現在の国歌『インドネシア・ラヤ』が、東京からラジオ放送で流されていました。我々は、もちろん、独立を願っていたので、日本軍がインドネシアに上陸して来たときは、熱狂的に迎えました。我々は、日本軍の協力があれば実現できると確信したからです。

■アフマッド・スパルジョ(外務大臣・サンフランシスコ講和会議首席代表)

私は、アジアでは日本人だけがインドネシア人民をオランダの植民地支配から解放することのできる勢力だと考えていた。インドネシアの民族運動と日本のアジア主義運動のあいだには、インドネシア人民がオランダ植民地から離脱することを容易にする共通点があったのである。すでに述べたとおり、日本軍占領当時、私が海軍で体験した出来事は、私の観測がまちがいではなかったことを示した。すなわち、海軍のなかに、日本の理想主義者がいたために、インドネシアの独立宣言は実現したのである。

インドネシア、とくにジャワに勤務した当時、大きな役割を果たした海軍の指導者、たとえば柴田中将、前田少将、そのスタッフである西嶋、住吉、佐藤などの諸氏が、遠い将来を見通して、日本とインドネシアの末長い友好関係を打ちたてるべく、基礎を築いた功績に対し、日本政府は、少なくとも十分な関心を払うべきである。

■ルスラン・アブドルガニ(外務大臣)

日本はヨーロッパに対抗できる、唯一植民地化されなかったアジアの国である、とスカルノとハッタは言った。

日露戦争で日本が勝利した知らせが来たとき、アジア人すべてが喜んだ。アジア人も白人に対抗できるという気概がわいてきたのだ。

私は小さい頃、母親からジョヨボヨの伝説（インドネシアは長いこと白人に支配されるだろうが、北から黄色い皮膚の人が助けに来て、トウモロコシの実がなるころに去っていく。そうしたらインドネシアは独立する、という予言的伝説）を聞かされた。だから、日本が来たとき、私たちはトウモロコシを植えたものだ。

日本軍政時代について多くの人がその軍政の悪さを批判している。日本軍政批判は、日本がインドネシアにいる間に2つの良いことをやったという事実を忘れている。第一は、日本がインドネシア人に軍事教育を施したこと、第二は、官史の養成のために学校をつくって教育してくれたことだ。そして、「セイシン」（精神＝ファイティング・スピリット）を吹き込んでくれた。これらは偉大な成果を収めた。

■ブン・トモ（情報・宣伝相）

日本は明治以来70年間に蓄えた財産と、教育した人材のすべてを投げうって、大東亜戦争を敢行した。

この戦争は我々の独立戦争だから、我々が主力で、日本軍は補助勢力であって然るべきだ。だから、我々の主力陣営から100、200万人の戦死者が出るのは覚悟の上だ。けれども日本は、“おれがやる”と頑張った。なぜ一緒にやろう”と言わないのだ。まことに水臭い。

日本の孤立頑迷体質、単騎独行気質は今の日本の外交によく出ている。こんな根性では、経済には成功しても、政治には失敗する。経済の失敗は小さな損失。だが、政治の失敗は大きな失敗になる。

それにしても日本は、戦後処理が下手糞である。為すべきことを為していない。日本の失敗は、たった一度の敗戦でアジア・アフリカ解放の志を捨てたことだ。それに比べるとドイツは、敗戦慣れしているから、憲法は譲らなかった。日本は譲った。それがバカだ。

私は日本に切望したい。

『アジア・アフリカの有色人種が欧米白人種並みの自由と繁栄を獲得するまで、日本には使命がある。どうか指導援助を続けてくれ』

（昭和32年に来日したブン・トモ情報相の、岸信介氏への発言）

■サンバス将軍（東欧大使・復員軍人省長官）

今、インドネシアでもその他の国でも、大東亜戦争で日本の憲兵が弾圧したとか、労働者を酷使したとか言っているが、そんなことは小さなことだ。いかなる戦場でも起こり得るし、何千年前もそうだったし、今後もそうだ。日本軍がやったもっとも大きな貢献は、我々の独立心をかきたててくれたことだ。そして厳しい訓練を課したことは、オランダのできないことだ。

日本人はインドネシア人と同じように苦労し、同じように汗を流し、“独立とは何か”を教えてくれたことだ。

これはいかに感謝しても感謝しすぎることはない。

このことはペタ（ジャワ防衛義勇軍）の訓練を受けた者は、一様に感じていることだ。特に、インドネシアが感謝することは、戦争が終わってから日本軍約1000人が帰国せず、インドネシア国軍とともにオランダ軍と戦い、独立に貢献してくれたことである。日本の戦死者は国軍墓地に祀り功績を讃えて殊勲章を贈っているがそれだけですむものではない。

■サイデマン・スハヨハディプロジョ（外務省上級大使）

多くの日本の青年たちが、インドネシアを自由にするために独立の闘士たちと肩を並べて戦ってくれました。そして多くの日本の若者たちが、そのために命を犠牲にしてくれました。

（平成七年五月二十九日、東京武道館で開催された「アジア共生の祭典」より）

■チョウ・シン・モ（大統領特使）

日本軍政の三年半は、東南アジアの民衆に与えたよくない側面もあったが、インドネシア建国に必要な民衆訓練・政治訓練・軍事訓練の機会となり、その後のナショナリズムの発展に向けてスカルノとインドネシア民族にとっては積極的な側面もあった。

■アリ・ムルトポ（陸軍准将・大統領特別補佐官・情報庁副長官）

日本はアジアの光である。大東亜戦争は、欧米人にアジア人の勇敢さを示したもので、チンギス・ハーンとともにアジア人の誇りである。

■アブドル・ハリス・ナスチオン（陸軍大将・国防軍参謀長）

独立できた要素の第一は、日本軍が植民地政治体制を粉砕したことです。植民地体制の粉砕なくして独立はありえません。第二は、日本軍の猛烈な軍事訓練です。オランダはやってくれませんでしたし、我々自身がやろうと思ってもできるものではありません。

日本軍時代の三年半でインドネシア人はすっかり変わったが、こんなに変わったことをイギリス軍やオランダ軍は分かっていませんでした。日本は、歴史に残ることをしてくれました。誰にも変えることのできない真実です。それを解釈するのは政治家やマスコミや学者ですから、今、いろいろ言われていますが。歴史に残る金字塔を打ち立てたということは間違いない事実です。

■ケマル・イドリス（陸軍中将）

日本が敵前上陸したとき、私たちは心から喜んで日本軍を迎え入れた。日本は非常に短い時間でオランダ軍を降伏させた。私はタンゲラン青年道場に入って非常に厳しい訓練を受けた。それは酷ともいえる教育だったが、私はそれを喜んで受け入れた。しばらく訓練を受けているうちに、これはオランダと戦うのに役に立つということに気がついたからだ。今でも日本に感謝の念を持っている。

■ズルキフリ・ルビス（陸軍大佐・参謀長代行）

大東亜戦争が契機となって、アジアからアフリカまで独立しました。日本にだけ犠牲を払わせてすまないと思っています。そして、大東亜戦争中の日本軍政の特徴は、魂を持ってきてくれたことです。我々と苦楽を共にし、農作業や各種技術の初歩を教えてくれ、軍事訓練までほどこしてくれました。当時の日本をトータルでみれば、軍人が最も真面目熱心で、インドネシア人の心をとらえました。

■シャリフ・アディル・サガラ（弁護士・南方特別留学生）

「日本は植民地支配者であるオランダを追い払った。驚異のアジア人」サガラ氏が覚えている日本人の第一印象だ。

「一番好きな日本語は『徳』です。戦争中の日本人が見せた団結心。愛国心。大和魂。民族意識。私もそうなりたい、と思った」

■ブギラン・ユスフ（南方特別留学生）

今こそ、日本は大東亜共栄圏のリーダ

《6頁3段目へ→》

移民受け入れ絶対反対！中絶を考え養子制度を見直そう

東京　田口　圭

まず、政府・経済界は、移民の受け入れを政策として提示しています。また、野党である自民党も、移民受け入れを政策として提示しています。二大政党である自民党＋民主党が、移民受け入れを推進すれば、すんなり実現してしまうわけでありおそらく、移民受け入れの実現は、現実的であると思います。

一般的に年金制度・社会保障制度は、人口がピラミッド型であることを前提としており子供を１～２人しか産まない社会では、社会を維持することはできない。したがって、夫婦が４人程度を産むことを前提としないと、年金・社会保障を維持できないともされています。

「子供が減っている。」「少子化である。」ということは、すでに指摘されており事実です。したがって、消費税で社会保障を補うということもなされてきました。

つまり、「新生児が減る」→「人口が減る」→「将来の納税者が減る」ということで、消費税増税を繰り返すので、所得税収の減収が予測されるのです。

子供が減っていると言われる一方で、報告されているだけで年間３０万件の中絶は問題視されていません。実際には、約１００万件の中絶がなされていると言われます。そういった年間１００万人程度の「日本人」が生まれていれば、移民を受け入れるということが具体化するまで追い詰められなかったと思いますがやはり、中絶が、日本の人口に与えた影響は大きいと思います。

さて、昭和の時代に、村上正邦氏が、「優生保護法の改正」を掲げて、国会で奮闘されていたころには、なんと７００万件の署名が集まり、国会で「優生保護法」の改正（経済的事情の削除）が実現しそうになりました。しかしながら、都道府県医師会が「優生保護法指定医」の権限を持つことから、医師会と中絶産業には関係が強く結果として、医師会の反対で、改正は実現しませんでした。

戦前は、明治天皇が「堕胎罪」を制定し、中絶を違法化して、富国強兵に必要な人口を確保することを目標としました。その結果、貧しい家庭の子供が職業軍人に志願して、世界最強の軍隊ができました。

戦後は、GHQの指令により、「経済的事情による中絶」が合法化されて、中絶が自由化され、日本が人口を増やせない政策が推進されました。

戦前の1922年（大正11年）に看護婦サンガーが来日した時には当時の官憲から危険人物とみなされ、制限付きで上陸を許可されたのでしたが、戦後の連合軍占領下の日本には、GHQの査証拒否により上陸も入国も許可されなかったのは歴史の大きな皮肉となりました。彼女の来日が実現したのは、マッカーサー元帥解任後の1952年のことでした。

実は、1948年に成立した、優生保護

《7頁へ続く↓》

《↓5頁末尾より》

になるべきです。かつてアジア人は「助け合って発展しよう」と言った。今こそ、大東亜共栄圏の約束を実行してくれ。

五十年前、日本人はアジア人になろうとした。だから私たちは親日なのです。だが、戦後の日本人は西洋人になろうとしている。最近留学した若者は、みんな反日になって帰ってくる。

■オマール・トシン(モハマディア大学学長)

私と同じ早大出身の海部首相が、大東亜戦争を理解しないのは遺憾である。あれでは戦死者は犬死になってしまう。アジアの大部分は親日なのに、なぜ少数派の反日派に迎合するのか。その理由を聞きたいものである。

(一九九一年四月末からASEAN諸国を歴訪した海部首相の謝罪演説に対して)

■ヤン・ヴィダル夫人(元新聞記者)

ヨーロッパは五百年にわたってアジア・アフリカを搾取した。しかし彼らはけっして謝罪しないし、賠償金も払わない。五百年のヨーロッパが謝罪しないのに、三年半の日本が謝罪するのは、外交音痴だ。もしこれがイギリスや中国だったら、「海部首相は利敵行為をした。彼は売国奴である」と罵倒されるに決まっている。英・蘭・仏等はなぜ謝罪も賠償金も払わないのか研究しなさい。

■ラハルジョ(全国ヘイホの会代表)

日本軍は、規律や銃の使い方など技術を教えてくれた。それは、その後の独立闘争や国家の再建に大きく役に立った。感謝している。

■アリフィン・ベイ(神田外国語大学名誉教授)

日本軍に占領された国々にとって、第二次大戦とは、ある面では日本の軍事的南進という形をとり、他面では近代化した日本の精神的、技術的面との出会いであった。日本が戦争に負けて、日本の軍隊が引き上げた後、アジアの諸国に残っていたのは、他ならない日本の精神的、技術的遺産であった。この遺産が第二次大戦後に新しく起こった、東南アジアの民族独立運動にとって、どれだけ多くの貢献をしたかを認めなければならない。

日本が敗戦国になったとはいえ、その精神的遺産は、アジア諸国に高く評価されていたのである。目標達成のためにどれほど必死にやらねばならないかということを、教えたのであった。

この必死な訓練が、後のインドネシア独立戦争の時に役立ったのである。その訓練が連合軍との決戦に備えたものであったことは間違いない事実であった。

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

私はこの文章を、中谷良子氏のブログから見つけ、斜めに目を通しただけでコピーをとった。わかりやすく言えば「パクった。」ところが紙面にしようと思えば、文字数を合わせなければならないので、いやがうえにも熟読しなければならない。読み進むにつれ涙が止まらない。そして、先の大戦で亡くなった全ての英霊にお礼を申し上げたい。と思った。

数年前『ムルディカ』と言う映画を見た。ラストシーンで、トラックの上から「♪インド・ネイシア！　インド・ネイシア！」と繰り返す歌声を思い出した。

中谷氏・・・ジェリーちゃんがこの文章をアップした着眼点の良さに感銘しつつ、冒頭彼女が「従軍慰安婦、強制連行や南京大虐殺が、嘘っぱちか理解できると思います。」と述べた言葉に「ナルホド！」と思い、私も同じ言葉を読者各位に申し上げたいと思います　増木

《→6頁2段末尾より》

法をめぐってGHQ当局内部に対立があり、占領軍総司令部としては、日本の人口政策に直接干渉しないという言明を出すなどの対応をしています。産児制限運動の指導者としての看護婦サンガーの来日も、日本の人口政策への干渉ととられることを極度に警戒し、既に優生保護法の成立に関連してGHQが国の内外から批判されたのを繰り返したくないというのが査証拒否の理由でした。いうまでもなく、占領下での日本のすべての法律はGHQの何らかの監査・指導の下に立案・施行されており、この意味で優生保護法も例外ではなかったと考えられます。

同法提案者の1人である日本医師会元会長の谷口彌三郎議員は、提案趣旨説明にあたり、必ず総司令部・自然資源局アッカーマン氏の言葉を引用し説明を加えており、人口抑制政策にGHQの強力な支持のあったことをうかがわせます

既に第2次大戦終結前から、日本占領政策の重要方針として日本の"非武装化"と"人口制限"が検討されていたことから、この戦後における"優生保護法"の成立も、この既定方針に沿ったものと考えられるのです。アッカーマン氏が1952年に刊行した著作でも、日本の人口抑制政策を"妥当な処置"として評価しているのは、この間の事情を解く鍵になります。

つまり、非武装化（憲法9条）と人口抑制（中絶合法化）が、GHQの二大基本政策であったのは事実であり、それを克服するために、当時の愛国勢力は、優生保護法の改正を目指したわけです。

さて、愛国勢力が優生保護法の改正に失敗して現在はどうなっているかということですが、なんと、一定の条件下で健康保険組合から中絶助成金が約20万円でます。つまり、助成金で、中絶を推奨して、さらに日本人を減らすということをやっています。また、産婦人科医が儲かるようにもなっています。

こうやって中絶で人口を減らし、少子化を加速化し、移民受け入れを推進する環境を作っているのが現在の制度です。

もし、中絶を違法化すれば、どうやって生まれてきた子供を育てるのか？　という反論があると思いますが、戦前は、養子が取りやすい社会で、かんたんに養子を取ることができました。

しかしながら、現在は、戦後民法で、養子を取りにくくなっています。家族法判例百選にも掲載されていますが、ある寺が、養子を取ろうとしたところ家庭裁判所が、許可を出さなかった。つまり、跡取りとして養子を取るのは「職業選択の自由に反する」とのことで許可されなかったわけです。

現在の家庭裁判所の基準として「夫婦であること」「年収が、ある程度高いこと」「夫婦のうちどちらかが、かかりきりになれること」などを養子を許可する最低限の条件としています。

そもそも、結婚しない男女が増えている現状で「夫婦であること」を条件とするのもおかしいですし、共働き家庭が多い現状で、「専業主婦」を要求するのもおかしい。（30~34歳の男性の未婚率は約50％）いずれにせよ、養子が取りやすいように法改正しないと、いけないというのはあると思います。

ちなみに、国会議員の野田聖子氏が養子を取ろうとした時も、年収はクリアできても、独身なので養子がとれない。選挙区の支援者の中で、育児ができるひともいるでしょうが、そういうのも考慮されず、独身ということで養子が取れなかった。したがって他人の精子と卵子で出産をするという無茶をやったわけです。

結局、養子が取りにくい共働き家庭は、不妊治療をやることになりこれも産婦人科医の利益になっています。

ちなみに、なんと、不妊治療費は、医療費控除の対象とまで、なっています。また、中絶も医療費控除の対象となっています。つまり、税制で、産婦人科医が行う「中絶」「不妊治療」を補助しているわけです。

さて、いわゆる孤児で、乳幼児で養子に行くタイミングを逃した場合はどうなるのか？ということですが小学校高学年になっていると、自分で身の回りの世話もできるし、いいのではないかとおもわれると思いますが実際はどうか？（もし、独身で養子を取ることが合法化されたらこういった高学齢児が対象となると思われる）

児童養護施設（いわゆる孤児院）は、高学齢児が、養子に取られることに反対します。表向きの理由は「高学齢児が養子に行っても、その家庭に適応できないはずだ」とのこと。しかし、実際は児童養護施設の運営資金は、自治体や政府からの補助金であり扱いやすい高学齢児を確保して手放したくないことと関係あるようです。

■児童福祉施設最低基準第42条によると「児童指導員及び保育士の総数は通じて、
・満三歳に満たない幼児概ね二人につき一人以上、
・満三歳以上概ね四人につき一人以上
・少年は概ね六人につき一人以上とする。」

となっているので、雇い入れる職員の数が少なくてすむ高学齢児を、経営上の理由から確保して手放したくないのは明らかです。また、近年は、小学校中学校で「両親に虐待されていませんか？」というパンフレットが配布されることもあり、「言葉の暴力（たとえば「ばか息子！」など）」などがあれば、上記の児童福祉施設に入れるようになっており、上記の施設の収入源となっております。

現在の児童福祉施設（孤児院）では、そういった「孤児ではない子供たち」の収容が半数を超えています。本来の施設の趣旨（孤児院）からは、本末転倒となっておりますが、そういった「虐待被害者児童」は児童福祉施設の貴重な収入源となっているのです。中絶を違法化することで、低所得者が子供を生むとして、それを危惧する声もあります。しかしながら、現在の日本では、ホワイトカラー求人には応募者が殺到する一方で、3K労働には人が集まらないという現実があります。そういった3K労働を埋めるために外国人労働者が提唱されているわけですが、中絶を違法化すれば、そういった3K労働に応募する「日本人」も増えるので、外国人労働者の必要性が消滅します。いわゆる3K労働の一例である看護師・介護では、常に人手不足が指摘されています。インドネシア、フィリピン、ベトナムからの受入れについて一応「看護師不足に対応するものではない」との建前で、なんと「経済交流」とのことですが、将来の移民受け入れを前提にした政策であるのは明らかでしょう。

自民、民主が提唱する「1000万移民受け入れ」が現実味を帯びている現在それに対する対案として「中絶違法化」と「養子の簡略化」が必要と思います。

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

田口圭氏の主張を支持するとともに、私見を述べます。

柏市議会議員　上橋　泉

嘉悦大学の高橋洋一教授（小泉純一郎、

《8頁4段目に続く　→》

8，9頁保存ミス

金剛山歌劇団冬眠から覚めたモスラ
委員会　伊丹市教育委員会　宝塚市教育
委員会　川西市教育委員会　兵庫県社会
福祉協議会　兵庫県芸術文化協会　兵庫
盲導犬協会

朝鮮総連は、公安調査庁に、破防法上の「過去に暴力主義的破壊活動を行い、将来もその恐れのある団体」に指定されています。

実質的に北朝鮮政府の対日本工作機関となっている朝鮮総連に「人権宣言」をうたう自治体の関与は許されることではありません。特に川西は、北朝鮮による拉致事件やミサイル発射をきっかけに後援をとり

《↓　7頁末尾より》

竹中平蔵のブレーンで、小泉改革をサポート、彼の『さらば霞が関』はベストセラー）は、「日本女性の妊娠率は欧米と比し低くない。母体保護法が完全な堕胎の自由を認めているので、出生率が欧米より低いだけだ。母体保護法を改正して、堕胎の要件を欧米並みに制限すれば、日本の出生率は、子供手当てを一切出さなくても、欧米並になる」と言っています。

日本会議の前身である「日本を守る国民会議」は、優生保護法（母体保護法の前身）の改正を最大の目標の一つに掲げていました。ところが、今日、日本会議は母体保護法について何も語りません。「谷口雅春先生を学ぶ会」は、東日本大震災の原因は、中絶された嬰児の怒りと呪いにあると見ています。津波のあのどす黒い色を見れば、その理由がよくわかります。

日本会議に連なる言論人の方々は、「東日本大震災で日本人の道徳水準の高さが証明された。日本はなんとすばらしい」と言って、気持ちが高揚しておられますが、皇祖皇宗が日本人の道徳水準の高さを世界に証明するために、津波を起こしたと思っておられるのでしょうか？

仏教の因果応報から見ても、現代の日本人に大きな罪穢れがあるから、東日本大震災が起こったと言うのが、日本人の伝統的な自然観です。

現代の日本人の最大の罪穢れは、世界史上、類例を見ない戦後日本の大量堕胎です。

日本会議に連なる言論人の方々、今は喜んでいるときではなく、大いに反省すべきときではないでしょうか？

市民感情は悪いとの事その影響で以前は日本語学科が盛況であったが、現在は激減し数名のみらしい。

万寿台丘（金主席・総書設され、万一の場合は充分に避難できそうに感じられた。地下鉄車内では軍歌調の歌が流れ、違和感を感じた。構内は戦前の御堂筋線のようであり、昭和時代のように懐かしかった。かなり深かったので実際、核攻撃があってもかなりの人数を収容できたうえに耐えられそうな雰囲気ではあった。有事に関する国民の意識は、しっかりしている寂しい。同じアジアの民族なので、早く米国から脱却をし、友好関係を構築しよう。

日本と朝鮮の認識や意見が違うのは当たり前である。考えが同じであれば、国が成り立たない。

我々は天皇を否定していない。金日成が唱えた愛国・愛族・愛民は、日本の保守と相通ずるものがあるはずである。次回は右派の訪朝団を結成してきてほしい。保守派を取り込んで世論を形成の「植民地＝併合・慰安婦＝売春婦・連行＝徴用」の主張に対し、訪朝団員側（日本人）から「アンタそんな質問失礼や」・「日本が朝鮮に迷惑をかけた」「歴史知らなさすぎる」等、小生の意見を真っ向から否定する場面があったが、

朝鮮側は複雑な顔で黙りこんでいた。日本人側に気を遣ってしまい、言いたい事が言えず議論が出来なくなってしまった。その後、朝鮮側。拉致問題を含め、多くの難題があるにせよ、日本人として堂々と意見を述べ、市民レベルから国交正常化に向け尽力したいと思う。

労働党との詳細は学者チームのHPに詳しく掲載されております

柴野貞夫時事問題研究会

田中　宇の国際ニュース　参照

各位から一言いただきました

米国製憲法のおかしさに気付く時
H24-8-6
防人を励ます会本部理事　奥中正之

日本領土である竹島にコリアの大統領が堂々と上陸し、「ここは我々の領土である」と宣言した。一方チャイナ人が、わが国の領土である尖閣諸島に入国ビザもなく上陸した。これに対してチャイナから謝罪の言葉は無い。

67年目の「敗戦の日」を挟むように惹起した上記の事件により、いくら平和ボケした日本人でも、「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。」と書かれた米国製憲法のおかしさに気付いたのではなかろうか。そして乱暴且つ粗野に国益を主張する隣国の強引さに、国家外交の本質を悟ったものと考える。いや、そうあって欲しいとの願いも込めて。

コリアと言い、チャイナと言い、かくも強引且つ粗野に自己主張を日本に押し付ける隣国と我々の国益を守りながら、如何にして前向きに付き合うのか、そして明治期に国際社会で栄光を放った祖国をどのうよにして再現するのか？　厳しい国際環境の中をどの様にしてわが国を導くのか？

念の為各政党の基本政策を検索した。国民大多数の支持を失った、共産党や社民党は相変わらず固く雨戸を閉ざし、外界が全く見えない中で夢想しているような美辞麗句の羅列である。それは当然としても、政権を担当している民主党にしても次期政権は担うと意気盛んな自民党のいずれも、この厳しい国際環境の中で、雄々しく且つ逞しくこの国を引っ張って行くとの気概が全く感じられない。

政治家のレベルは国民のレベルで決まると、言われるが国民が国の大切さを忘れ、且つ厳しい国際社会の現実から目をそらし続けた結果がこうなのか。

北朝鮮からミサイルを一発撃ち込まれれば、日本人は覚醒すると言われる方がおられるが、「従軍慰安婦」とか「南京大虐殺」などのカードを使っていじめられ、民族のプライドを徐々に失ううちに、この日本は近隣諸国の対日謀略によって、戦わずして滅ぼされのではないかと真剣に憂慮している。

佐々氏ではないが、我々に残された時間はもうない。

真の教育を支えるF学園
H24-8-9
たちあがれ日本　中曽千鶴子

8月7日、Z市にある『学園中学・高校をM情報、増木さんの紹介で訪問。の校長に校長室にお招きいただき、日本の教育の方向性、教育基本条例について、関西の教育の現状など様々なお話をいただきました。

私は現在、他の学校の学校評議員として礼法・武道・茶華道など、道徳はまず、精神面、形式、訓練からだという主張などを提案し、各界で活躍中の諸先輩の講話などの開催で、まず学校に誇りを持つことなど提案していました。

文科省、教育基本法改正により音楽でも伝統的な和の音楽、そして体育には武道、家庭科には家族の大切さを教える事が必修となりつつありますが、それに加えてもっともっと総合学習などで人権・権利・悪平等・反戦・平和・同和・男女共生、他文化教生など教える必要はまったくなく、道徳を形式からでも教えていくべきだという提案です。

しかし、この『学園では、いち早く、その取り組みを実践されておられ、すでに礼法、茶華道、そして着付けなども女生徒に学ばせておられるということです。「3年にもなると浴衣くらいは自分で着れる。」との校長は仰られていました。

そして、「女子校として、ジェンダーフリーの考えとは相容れない。」と仰いました。それはそうですね。また昨今の携帯電話などによる生徒間のネット依存、ネットいじめ?ネット犯罪などを懸念されて情報教育と事前に学校側で防護するシステムも確立されておられることなど、また社会であってはならぬことは学校でもあってはならぬ。いじめの限度を超えた暴行等はすぐに警察に通報する。等、とても勉強になり、かつ崇高な日本を担う子供たちの育成に力を注いでおられることに感銘いたしました。

もう1つ大変興味深いお話をお聞きしました。の校長は元々『市の教諭→校長→教委を歴任され、公教育の専門家でもあられた。修学旅行の引率をする。そして旅館で校長の部屋が割り当てられる。公立の時は何の配慮もない普通の部屋。下手をすると相部屋、雑魚寝。ところがこの『学園は海外。校長の部屋は最上階の特別室。日本とは全く配慮が違うという。「長」、「権威」に対する尊敬の念が違うのだ。

権威も与えず、責任だけ押し付ける日本とは全く配慮が違うという。「長」、「権威」に対する尊敬の念が違うのだ。

権威も与えず、責任だけ押し付ける日本・・・・・愚痴はよそう。

全く偶然ですが、校長先生の奥様が公立中学の教頭（当時）先生で、昔、たいへんお世話になりました。美しく聡明で憧れの大和撫子女性教育者でした。ご縁を感じました。

野田総理への提言（尖閣問題）
H24-7-28
千葉県　近藤将充

野田佳彦　総理大臣殿

私は船橋の近藤将允と申します。

総理は過日衆院本会議で、尖閣諸島など日本の領土・領海で外国による不法行為が発生した場合、「必要に応じて自衛隊を用いることも含め、政府全体で毅然と対応する」と申されました。世界の常識からいえば至極当然の発言ですが、「不思議の国日本」では長く政権の座にあった保守を任じる自民党下でも、ついぞ聞かれなかった発言です。

私は率直に総理のこの発言を歓迎し支持するものであります。

さてそこで総理に提言があります。

結論から言えば、「**集団的自衛権の行使**」を速やかに明言して頂きたいのです。米国のクリントン長官は、尖閣諸島が安保条約の対象になるといっております。しかしこれは日米安保条約という国際条約の法的解釈を言っているに過ぎず、現実に尖閣で武力衝突が発生した場合、米国が尖閣で自国の青年の血を流すことはあり得ないでしょう。以下略

P11、12保存失敗につきここまで